

平成23年度地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通ネットワーク計画に基づく事業)

平成 24 年 4 月 23 日

協議会・構成員 三条市地域公共交通協議会

【構成員】(順不同)

越後交通株式会社三条営業所、新潟交通観光バス株式会社三条営業所、東日本旅客鉄道株式会社新潟支社、社団法人新潟県バス協会、国土交通省北陸地方整備局新潟国道事務所、新潟県三条地域振興局地域整備部、三条市建設部、三条市タクシー協会、三条警察署、地域公共交通利用者代表、学識経験者、国土交通省北陸信越運輸局、国土交通省北陸信越運輸局新潟運輸支局、新潟県交通政策課、燕市生活環境課、三条観光協会、三条商工会議所、栄商工会、下田商工会、日本労働組合総連合会新潟県連合会県央地域協議会、三条市

事業名	補助対象事業者等	事業概要	①事業実施の適切性	②目標・効果達成状況	③事業の今後の改善点
陸上交通に係る 地域公共交通確保維持事業 (地域内フィーダー系統)	越後交通株式会社 福沢線	福沢～長沢駅跡	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標に掲げた日平均利用者数10人に対し、平成23年4月～9月の実績は10.0人であり、目標どおりの数値となった。	地域住民の重要な交通手段として利用を得ており、今後もチラシの配布等により積極的な周知を行い、利用者の拡大に努める。
陸上交通に係る 地域公共交通確保維持事業 (地域内フィーダー系統)	越後交通株式会社 高校生通学ライナーバス	東三条駅～県央工業高等学校	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標に掲げた日平均利用者数35人に対し、平成23年4月～9月の実績は29.6人であり、周知不足等が原因で目標を下回る数値となった。	特に、新入生等への周知不足等が考えられることから、今後はチラシの配布や広報等を活用して積極的な周知を行い、利用者の拡大に努める。
陸上交通に係る 地域公共交通確保維持事業 (地域内フィーダー系統)	中越交通株式会社 三条市デマンド交通	三条市内	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標に掲げた日平均利用者数300人に対し、補助対象となった平成23年7月～9月の日平均利用者数は363人であり、目標を大きく上回ることができた。 なお、運行許可の関係上、補助対象となった事業者は2社にとどまった。	利便性の高いサービスと効率的な運行により、今後もより一層の利用者の拡大と持続可能な運行に努める。
陸上交通に係る 地域公共交通確保維持事業 (地域内フィーダー系統)	日の丸観光タクシー株式会社 三条市デマンド交通	三条市内	A 計画どおり事業は適切に実施された。		利便性の高いサービスと効率的な運行により、今後もより一層の利用者の拡大と持続可能な運行に努める。

【各評価項目の評価基準】

①事業実施の適切性

- A…事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された(されている)。
- B…事業が計画に位置づけられたとおりに実施されていない点があった(一部実施されない見込み)。
- C…事業が計画に位置づけられたとおりに実施されなかった(実施されない見込み)。

②目標・効果達成状況

- A…事業が計画に位置付けられた目標を達成した(する見込み)。
- B…事業が計画に位置付けられた目標を達成できていない点があった(一部達成できない見込み)。
- C…事業が計画に位置付けられた目標を達成できなかった(達成できない見込み)。

平成23年度 三条市地域公共交通協議会 地域公共交通確保維持改善事業（地域内フィーダー系統）概要

三条市の概要

新潟県のほぼ中央に位置
平成17年5月に、三条市、栄町、下田村が合併
人口：103,314人（平成24年3月30日現在）
面積：432.01km²
将来都市像：豊かな自然に恵まれ歴史と文化の
息づく創意に満ちたものづくりのまち

三条市地域公共交通協議会

平成19年11月9日規約制定、発足
構成員：越後交通株式会社三条営業所、新潟交通観光バス株式会社
三条営業所、東日本旅客鉄道株式会社新潟支社、社団法人新潟県
バス協会、国土交通省北陸地方整備局新潟国道事務所、新潟県三
条地域振興局地域整備部、三条市建設部、三条市タクシー協会、三
条警察署、地域公共交通利用者、学識経験者、国土交通省北陸信越
運輸局、国土交通省北陸信越運輸局新潟運輸支局、新潟県交通政
策課、燕市生活環境課、三条観光協会、三条商工会議所、栄商工会、
下田商工会、日本労働組合総連合会新潟県連合会県央地域協議会、
三条市（順不同）

事業概要

現在の三条市は、平成17年5月に、三条市、栄町、下田村が合併して誕生した。
合併後の三条市の公共交通は、様々な課題を抱えていた。中でも最も大きな課題は、いわゆる「公共交通負のスパイラル」であった。これは、公共交通利用者数の減少に伴う不採算路線のサービス低下が連鎖的に発生する現象である。
また、マイカー依存の拡大の問題も深刻であった。具体的には、高齢者のマイカー依存に伴う交通事故への不安の増大、高齢者の通院や学生の通学に対する家族送迎負担の増大などが挙げられる。
このほか、三条市コミュニティバスの利用者の減少、市町村合併及びバス路線廃止等による交通空白地域拡大、少子高齢化の進展、三条市のまちづくりとの連携などの課題があった。
これらの課題を抜本的に見直すため、地域公共交通総合連携計画を策定することとし、平成19年8月10日に、全国第1号となる地域公共交通総合連携計画策定調査事業の認定を受けた。
上記計画に基づき、様々な公共交通社会実験を実施した後、平成23年度から地域公共交通確保維持改善事業に則り、生活交通ネットワーク計画を策定し、地域内フィーダー系統事業を実施している。

協議会の主な取り組み

- 公共交通確保維持のための運行の見直し、検証
- バス路線の見直し
- 三条市デマンド交通ひめさゆり事業の実施
- 高校生通学ライナーバス利用者に対する定期券購入助成

平成23年度 三条市地域公共交通協議会

地域公共交通確保維持改善事業（地域内フィーダー系統確保維持事業）概要

定量的な目標・効果

- (目標) ■ 福沢線の日平均利用者数を、10人以上とします。
■ 高校生通学ライナーバスの日平均利用者数を、35人以上とします。
■ 三条市デマンド交通ひめさゆりの日平均利用者数を、300人以上とします。
- (効果) ■ 幹線に接続する交通手段が維持され、地域住民の特に朝夕の通勤・通学のための交通手段が確保されます。
■ 主に下田地区在住の学生の通学手段が維持されるとともに、保護者の送迎負担の軽減を図ることができます。
■ 利用が少なかったバス路線に代わる交通体系を確保し、高齢者をはじめとする市民の日常生活に必要な移動手段が確保されます。また、同交通の運行維持により、三条市が目指す外出促進(商店街活性化等)や健康増進等の施策と連携することが可能となります。

協議会における検討

協議会開催状況 平成23年度 4回開催

- 第1回(平成23年4月11日) 平成22年度公共交通社会実験結果
- 第2回(平成23年6月29日) 生活交通ネットワーク計画を協議
- 第3回(平成23年11月7～14日) デマンド交通刈谷田線代替運行協議
- 第4回(平成24年2月23日) 平成23年度の実績、評価等

利用者等の意見の反映

- 三条市デマンド交通お客様アンケート
(平成23年12月19日～28日)
対象:1,000件 回収187件 回収率18.7%

運行系統図



平成23年度 三条市地域公共交通協議会

地域公共交通確保維持改善事業（地域内フィーダー系統確保維持事業）概要

事業実施の適切性

- 福沢線：計画どおり事業は適切に実施された
- 高校生通学ライナーバス：計画どおり事業は適切に実施された
- 三条市デマンド交通ひめさゆり：計画どおり事業は適切に実施された

目標・効果達成状況

- 福沢線：目標に掲げた日平均利用者数10人に対し、平成23年4月～9月の実績は10.0人であり、目標どおりの数値となった
- 高校生通学ライナーバス：目標に掲げた日平均利用者数35人に対し、平成23年4月～9月の実績は29.6人であり、周知不足等が原因で目標を下回る数値となった。
- 三条市デマンド交通ひめさゆり：目標に掲げた日平均利用者数300人に対し、補助対象となった平成23年7月～9月の日平均利用者数は363人であり、目標を大きく上回ることができた。なお、運行許可の関係上、補助対象となった事業者は2社にとどまった。

事業の今後の改善点

- 福沢線：地域住民の重要な交通手段として利用を得ており、今後もチラシの配布等により積極的な周知を行い、利用者の拡大に努める
- 高校生通学ライナーバス：特に、新入生等への周知不足等が考えられたことから、今後はチラシの配布や広報等を活用して積極的な周知を行い、利用者の拡大に努める
- 三条市デマンド交通ひめさゆり：利便性の高いサービスと効率的な運行により、今後もより一層の利用者の拡大と持続可能な運行に努める